

小児の胃腸炎について (ロタウイルス感染症を中心に)



常陸大宮済生会病院 小児科医員 吉川 亜佐子

胃腸炎はウイルスや細菌などの感染により、胃や腸の働きが低下し、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状が起こる病気です。冬場は胃腸炎が流行しやすく、小児科でもこのような症状で受診される患者様が増えています。

冬場の胃腸炎の原因としてはノロウイルスやロタウイルスが多いです。特にロタウイルスは乳幼児期(0~6歳)での発症率が高く、米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴です。他のウイルス性胃腸炎に比べ下痢や嘔吐の症状が激しく、重症化しやすい傾向があります。また、ロタウイルスでは反復性痙攣や脳炎などの重症合併症を来すこともあります。国内でのウイルス性脳炎として、ロタウイルスによるものは3番目に多く、年間約40例が報告されています。そのうち約15%が死亡、約25%は後遺症を残し、インフルエンザ脳炎よりも予後は悪い傾向にあります。



子供の嘔吐や下痢で圧倒的に多いのは胃腸炎ですが、まれに腸閉塞や腸重積、虫垂炎などの重大な病気が隠れていることがあります。便に血が混じる、吐物が黄色や緑色、一定の間隔をあけて繰り返し激しい痛みを訴えたり大泣きしたりする…などの場合は胃腸炎以外の疾患である可能性が高いため、すぐに医療機関を受診しましょう。

胃腸炎で一番懸念されるのは脱水ですが、脱水に陥ると、「泣いても涙が出ない」「尿量が減る」などのサインが現れます。嘔吐や下痢などの症状が見られたら、脱水のサインが現れる前に早めに水分摂取をするようにしてください。ただし、嘔吐をした直後は飲食はせず、1~2時間おいてから水分摂取を始めるようにしましょう。この際の重要なポイントは「少量頻回」の水分摂取です。具体的な飲ませ方としては、1回にティースプーン1杯の量が目安です。乳児の場合、母乳やミルクは消化が良いので与えて頂いて構いませんが、少しずつあげることを心がけてください。離乳期以降であれば市販の経口補水液(OS-1やアクアライトORS)を少しずつ飲ませてあげてください。このような方法でも水分摂取が難しいようであれば点滴での水分補給が必要になりますので、無理せずに医療機関を受診してください。

※救急受け入れの人数を月別に表しています。(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院救急患者受入状況

